

会報 危険物

会報 『危険物』 第20号

発行 令和8年1月1日

(毎年1回1月発行)

発行人 新潟県危険物安全協会

小千谷地区支会

謹んで新年のお慶びを申し上げます

新潟県危険物安全協会小千谷地区支会

支会長 米岡 良太



令和7年度危険物安全週間推進標語

「危険物 無事故へ挑む ゴング鳴る」

年頭のあいさつ



新潟県危険物安全協会

小千谷地区支会

支会長 米岡 良太

新年あけましておめでとうございます。

新潟県危険物安全協会小千谷地区支会の会員の皆様におかれましては、清々しい新春を迎えられたことと、謹んでお慶び申し上げます。

平素は、当支会の運営方針に対し、深いご理解とご賛同を賜り、また、各事業所におかれましては危険物管理・保安業務に真摯に取り組んでいただき、厚く御礼を申し上げます。皆様の日頃のご協力こそが、地域の安全を支える礎であると改めて感謝申し上げます。

さて、昨年(2025年)を振り返りますと、大相撲における横綱大の里関の誕生をはじめ、女子ゴルフでの山下美夢有選手による海外メジャー大会制覇など、スポーツ界では若き才能が躍動し、私たちに大きな感動と希望をもたらしてくれました。文化・芸術の面においても、日本独自の創造性が世界に高く評価されるなど、明るい話題に満ちた一年でありました。

一方で、年の終わりに発生した青森県東方沖の地震は、広範囲にわたって大きな不安をもたらし、また、全国各地で発生した大規模な火災や産業事故は、尊い人命と財産を一瞬にして奪う悲劇として、私たちの心に深く刻まれました。これらの痛ましい出来事に接するたび、私たちは**「人命最優先」という危険物管理の根幹**を今一度胸に刻み、危機管理の重要性を痛感させられました。

このような情勢下におきましても、当支会管内では、会員の皆様が保安体制の堅持と危険物管理の周知徹底に鋭意努力された結果、重大な事故を未然に防止し、地域の安全に貢献することができました。これは、ひとえに皆様の強い責任感とたゆまぬ努力の賜物であり、この場をお借りして改めて深甚なる敬意を表する次第です。危険物を取り扱う我々にとって、安全の確保は地域社会に対する最も重い責務であります。本年も、この責務を全うすべく、当支会は、皆様の事業活動を支援するため、消防法規の改正動向の迅速な共有、保安教育訓練の充実、そして最新の事故防止技術に関する情報提供を積極的に行ってまいります。会員の皆様におかれましても、年度の初めに立ち返り、慣れによる気の緩みを排し、『災害は忘れた頃にやってくる』という警句を常に念頭に置いた、より厳格な安全管理体制の構築にご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びとなりますが、2026年が皆様にとって無事故・無災害の一年となり、新潟県危険物安全協会小千谷地区支会会員事業所が地域経済の牽引役として益々ご発展されますよう祈念いたしますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶



小千谷市消防本部

消防長 有馬 哲也

(小千谷地区支会 顧問)

輝かしい令和8年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素より会員の皆様には、危険物保安の確保と地域の安全向上に格別のご理解
解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、危険物施設では依然として事故が発生しており、一昨年の全国統計では火災 267 件、流出 486 件が報告されております。要因として、施設の経年劣化に加え、操作ミスや維持管理の不備などの人的要因が挙げられております。特に地下タンクからの危険物流出事故は後を絶たず、その対策は急務となっております。

このような状況から、危険物施設における老朽化対策や点検・管理の徹底は、今後さらに重要性を増してまいります。県内の事故件数は令和4年をピークに減少傾向にあり、事業者の皆様の不断の努力や関係機関の取り組みが確実に成果へつながっていることに、心強さを感じているところでございます。

本市におきましても、令和5年以降、危険物施設に起因する事故は発生しておりません。しかしながら、昨年の記録的な猛暑をはじめ、危険物管理を取り巻く環境は一層厳しさを増しております。とりわけ高温化は蒸気発生量の増大や設備への負荷上昇を招き、事故発生の要因となり得ることから、引き続き細心の注意が求められるところでございます。こうした状況を踏まえ、危険物保安に対する考え方をより高度化し、実効性のある対策を着実に推進していくことが、これまで以上に重要となってまいります。

消防本部といたしましても、皆様のご協力のもと、危険物施設への立入検査や保安講習の充実など、未然防止に向けた取り組みを進めております。しかし、危険物災害は一つの見落としや油断から発生するものであり、完全に防ぎ切れるものではございません。事業者の皆様におかれましても、確実な設備管理、手順の遵守、異常の早期発見、従業員教育の徹底など、現場における不断の努力をお願い申し上げる次第でございます。

本年も皆様と連携し、安全確保と災害に強い地域づくり、市民の安心と信頼の維持に向けて、各種施策に力を注ぎ推進して参りたいと存じます。地域の安全は、一人ひとりの確実な行動と危険予知の積み重ねによって守られるものと考えております。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げるとともに、本年が災害の少ない平穏な一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和6年中の危険物に係る事故の概要

1 概要

新潟県内の危険物に係る事故の発生状況は、令和5年は60件であったが、令和6年は4件減少して56件となりました。施設別では、令和6年は給油取扱所の事故件数が26件で最も多く、一般取扱所の12件、製造所の10件がこれに次いでいます。例年、給油取扱所及び一般取扱所における事故件数が多い傾向にあります。

2 火災事故

令和6年は一般取扱所で2件、製造所及び給油取扱所で各1件の合計4件の火災が発生しました。過去5年間における火災事故を発生原因別にみると人的要因が12件（41.4%）、物的要因が12件（41.4%）、その他の要因と不明・調査中を合わせて5件（17.2%）となっています。人的要因では監視不十分による火災発生が多い傾向にあり、物的要因では機器の故障による火災が多く発生しています。

3 流出事故

令和6年は流出事故が30件発生し、令和5年の28件よりも2件増加しました。危険物施設の過去5年間における施設別の流出事故の発生状況をみると、全流出事故118件のうち、一般取扱所が39件（33.1%）と最も多く、次いで給油取扱所が19件（16.1%）、製造所が18件（15.3%）移動タンク貯蔵所が17件（14.4%）となっています。

新潟県内の危険物施設数と事故件数



会報『危険物』第20号

編集 新潟県危険物安全協会 小千谷地区支会 事務局 小千谷市城内3丁目1番9号 小千谷市消防本部予防課内

TEL (0258) 83-0238 (直通)

FAX (0258) 82-0209

E-Mail syobou-yobou@city.ojiya.niigata.jp

※ 本誌は会員に配布したものの一部を省略して掲載しております。